

業 種	海運(貨物)
取組分野	事故、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用
テーマ	自社保有船の運航実態を踏まえたヒヤリ・ハット情報の分析と共有
取組の狙い	同僚のヒヤリ・ハット体験等を社内で共有、自社保有船の特性を踏まえた分析を行い、対策の周知徹底を図る。
具体的内容	<p>興和海運(株)では、各船が体験・見聞きした出入港時の危険要因や個々の乗組み員のヒヤリ・ハット体験について、自社保有船(4000GTクラスのセメント船等)の特性を踏まえて分析し、対策を立案、これらの情報の共有化が図られている。</p> <p>1. 自社保有船が体験したヒヤリ・ハット報告について、海務部が図解入りで事案の概要をまとめ、原因分析と対策を付した上で、本船に全件フィードバックしている。【別添】</p> <p>同型船や同僚のヒヤリ・ハット体験については、社員も高い関心を持っており、情報の共有化を通じて、操船の安全確保、安全意識の向上に役立てている。</p> <p>なお、同社では、ヒヤリ・ハット体験の報告内容に関しては責任を問わないことを乗組員に時間をかけて説明を行い、積極的な報告の提出を促進しており、報告を行う文化が乗組員の中で出来つつある。</p> <p>2. その他の事故対策として、船内での乗組員の労災防止軽減のために、船内作業を行う箇所にモニターカメラを設置し、観察を行っている。実際の作業手順や作業状況も確認することができ、事故対策だけでなく、業務手順の改善等にも活用している。</p>
取組の効果	大型内航船を主力とする運航の実態に即してヒヤリ・ハットを分析、対策の周知徹底を図ることにより、操船の安全確保、安全意識の向上を図った結果、2009年は海難ゼロを達成した。
事業者名	興和海運(株) 企画経理部(連絡先:電話 022-365-0136(代))

海務部で作成し、全保有船にフィードバックされるヒヤリ・ハットの事例

ヒヤリハット報告書(社内報告)

青葉丸は、習志野港にてセメント揚荷を終了し平成20年4月23日10:40出港しました。離岸後惰力航行中(速力約2ノット)・出港警戒航行中(茜浜と船橋水路の交差部は「危険水域」である)・万全の態勢(船首3人・船橋4人配置・アンカーS/B・スラスターS/B・極微速航行等)で交差部手前を航行していたとき、本船の前方約300mの船橋水路を499貨物船が全速で横切って行ったので一瞬「ヒヤリ」とした。

原因:従来から「危険水域」との認識で十分に警戒しており安全に対応できたと思いますが、平成17年8月に北上丸での遭遇と類似しており、その際対策として指示をしていたことが守られていないことに原因があります。つまり、本船の行き脚を港口で止める事ができるように「機関停止」を出口手前約500mで実施、後進準備をしなかったことです。

対策:「危険水域」を再認識し、安全確認を疎かにせず、会社指示の安全対策を守ることです。1 原因にあるとおり「機関停止」を実施し港口で行き脚を止めること。2 機関停止時から本船が入出港船・船橋水路横切り船の有無の確認ができるまで「警告信号」を発信すること又夜間においては探照灯の照射も実施すること。3 船首部見張り員の配置・アンカーS/B・スラスターS/Bの実施 等により安全を確保して下さい。

